
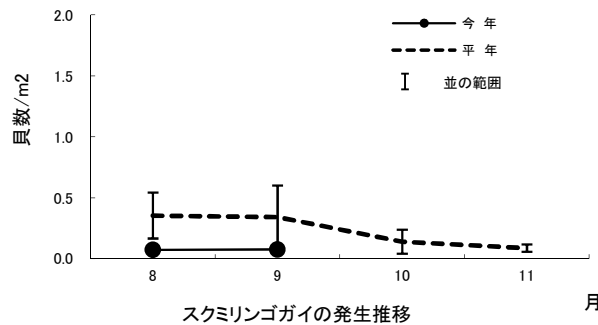


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
9月の発生量（現況）	やや少		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

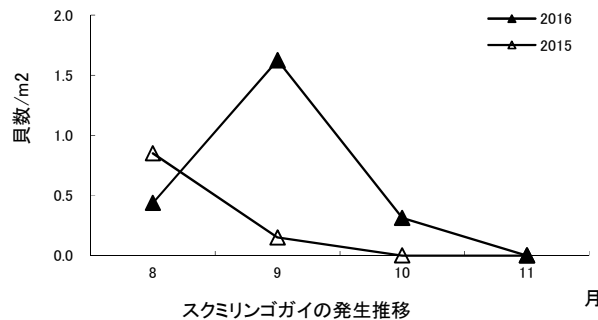
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、1平方メートルあたりの貝数は0.1頭（前年1.6頭、平年0.3頭）と平年よりやや少なかった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

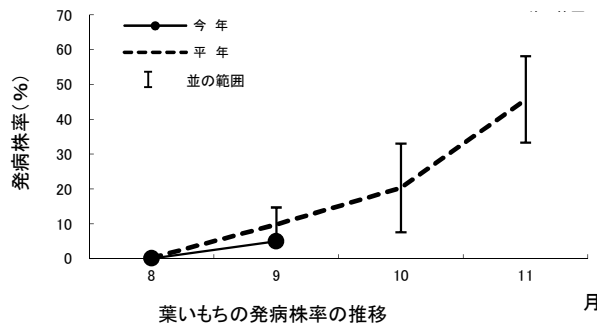
- ・ 貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・ 取水口に侵入防止網（目合6~9mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

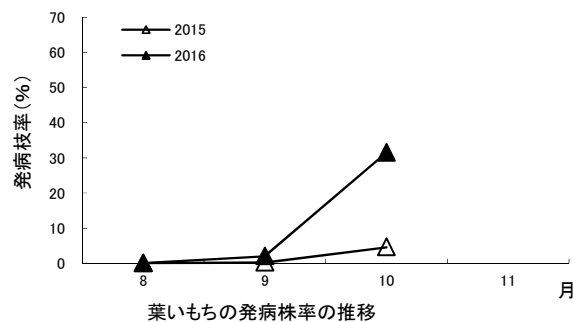
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、発病株率は5.0%（前年2.0%、平年9.8%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

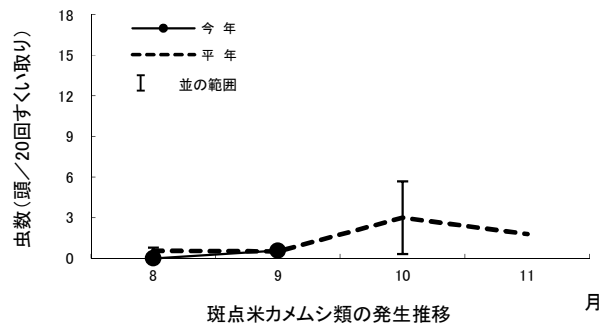
- ・ 窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・ 穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・ 被害わらは次作の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し処分する。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		
9月の発生量(現況)	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、9月より発生量は増加すると考えられる。		

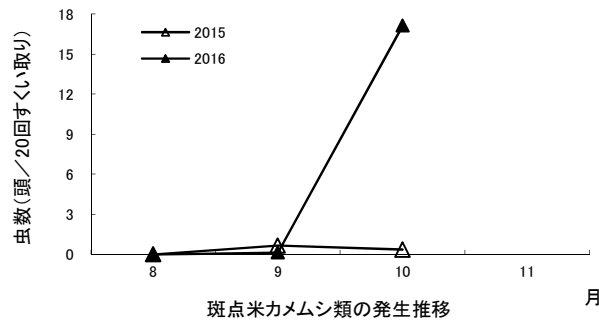
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 9月中旬の調査の結果、捕虫網20回すくい取り虫数は0.6頭(前年0.1頭、平年0.5頭)と平年並であった。
- ・ 発生種はアカカメムシ、ヒメナガカメムシ類であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

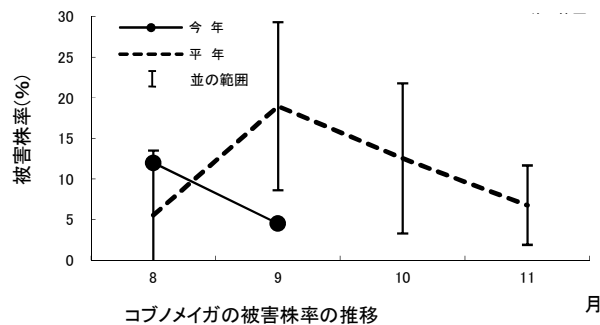
- ・ 畔や水田周辺の雑草から出穂後に水田内に移動するため、出穂期までの定期的な除草により初期密度を低減する。
- ・ 出穂期前後の除草はカメムシ類が水田に移動するので極力控える。
- ・ 薬剤防除は穂揃期とその7~10日後の2回実施を基本とする。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ コブノメイガ		
9月の発生量（現況）	やや少		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

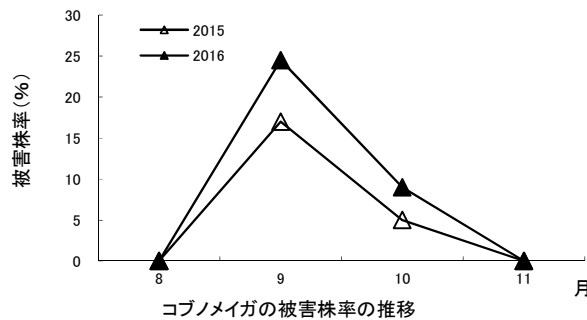
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、被害株率は4.5%（前年24.5%、平年19.0%）と平年よりやや少なかった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

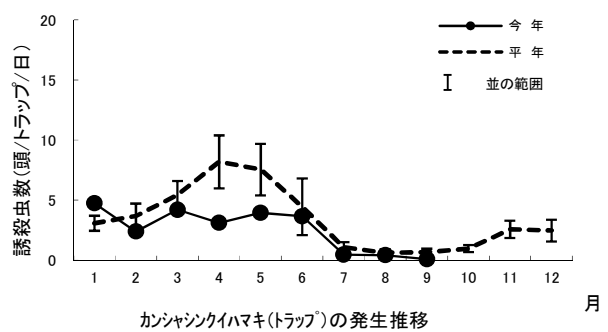
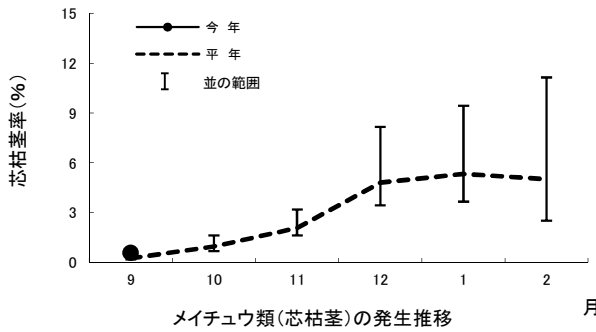
- ・ 老齢幼虫は防除効果が劣るため、薬剤防除適期は粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約1週間後である。
- ・ 窒素肥料の過用は避ける。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
9月の発生量(現況)	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

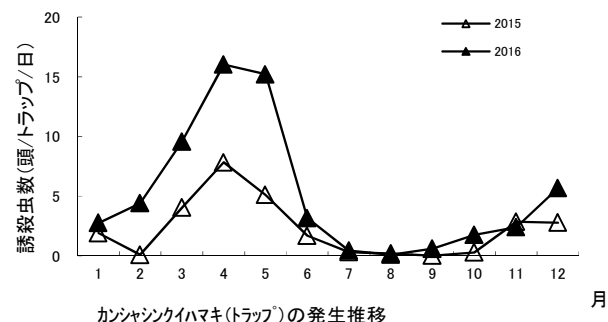
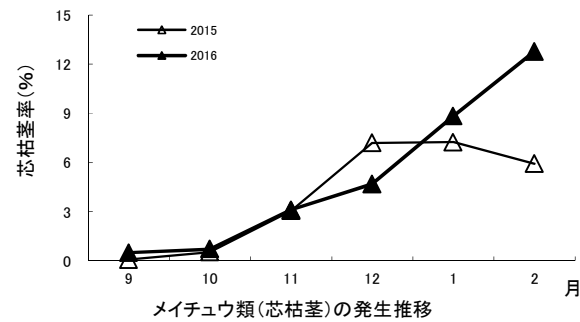
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.6% (前年0.5%、平年0.2%) と平年より多かった。但し芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫に本種は含まれなかった。
- ・ 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭 (前年0.6頭、平年0.7頭) と平年よりやや少なかった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

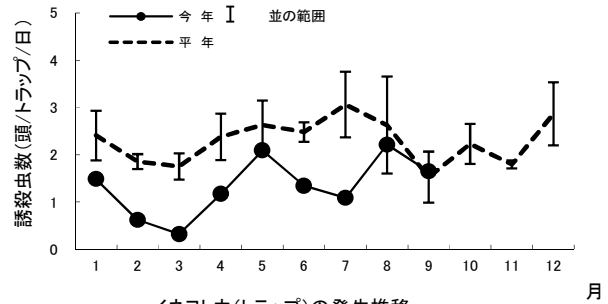
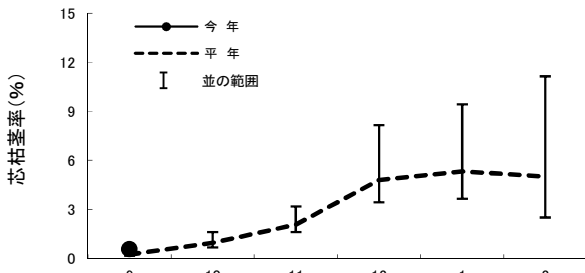
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
9月の発生量 (現況)	やや多		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

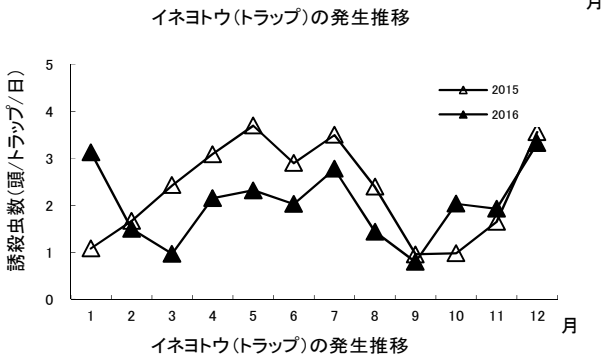
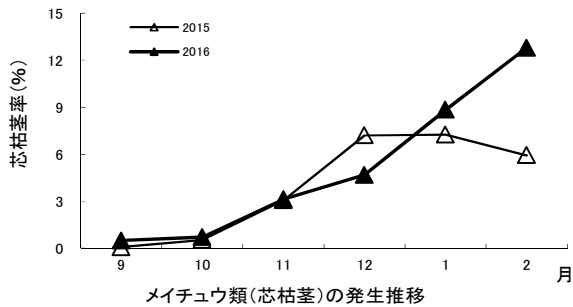
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.6% (前年0.5%、平年0.2%) と平年より多かった。また芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫は全てイネヨトウであった。
- ・ 9月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.7頭 (前年0.8頭、平年1.5頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)
メイチュウ類(芯枯茎)の発生推移



防除のポイント

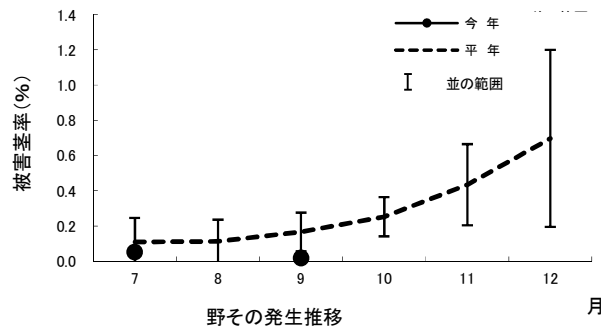
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ 野そ		
9月の発生量（現況）	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

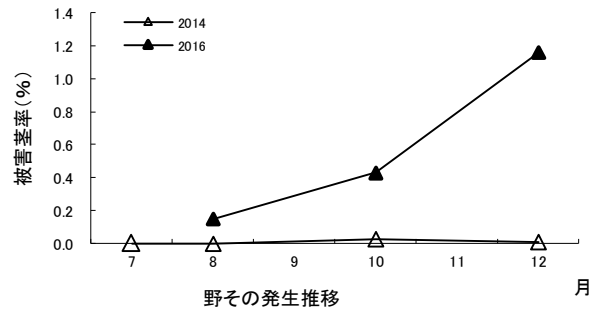
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月上旬の調査の結果、夏植ほ場における被害茎率は0.1%未満（前年調査なし、平年0.2%）と平年よりやや少なかった。
- ・ 防除員の報告によると、与那国島において野その被害が確認された。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

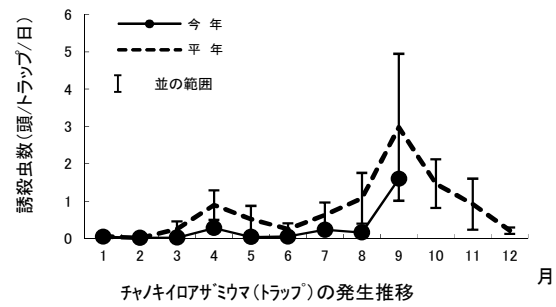
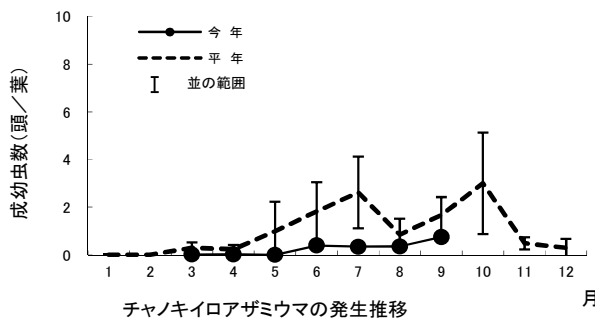
- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等を行う。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
9月の発生量(現況)	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢の発生が続いていること、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、9月より発生量は増加すると考えられる。		

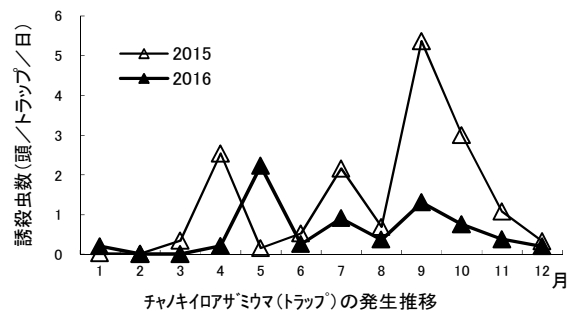
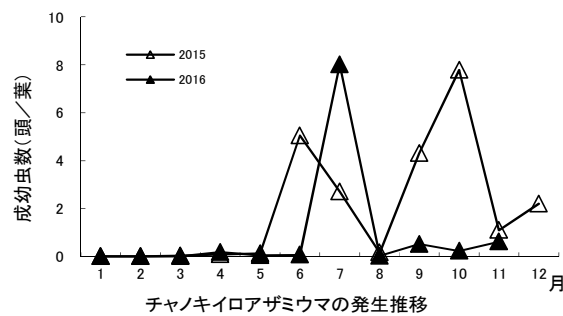
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 9月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.8頭(前年0.5頭、平年1.7頭)と平年よりやや少なかった。
- ・ 9月の黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は1.6頭(前年1.3頭、平年3.0頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

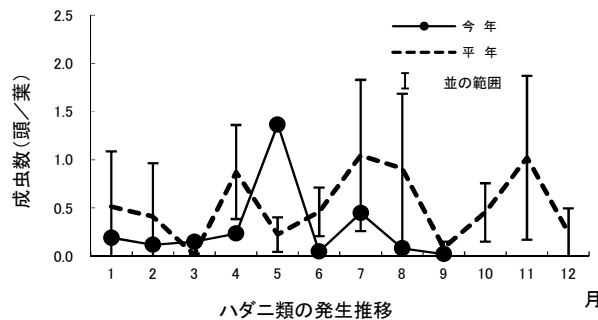
- ・ 新梢発生期には本種が増加する傾向にあるので、早期発見・防除を行う。
- ・ 不要な新梢は、早い時期に除去する。
- ・ 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号(平成29年7月27日付)コラム参照。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類		
9月の発生量(現況)	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、9月より発生量は増加すると考えられる。		

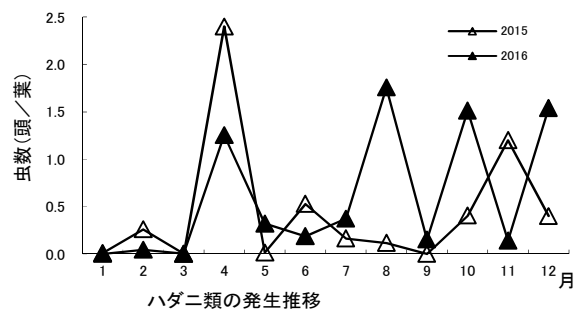
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 9月下旬の調査の結果、成葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭未満(前年0.2頭、平年0.1頭)と平年よりやや少なかった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭であった。
- ・ 発生種は、全てシュレイツメハダニであった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

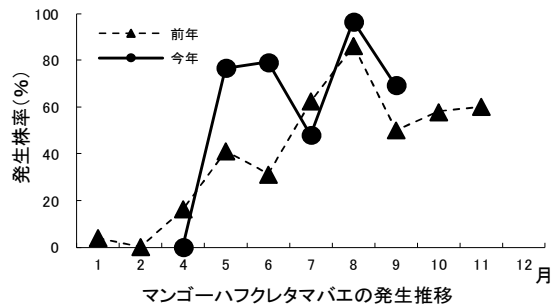
- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号(平成29年度7月27日付)コラム参照。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
9月の発生量（現況）	判定不可		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	新梢の発生が続いていること、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、発生が継続すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）


- 9月下旬の調査の結果、発生株率は69.3%（前年50.0%）、発生ほ場率は100%（前年100%）であった。
- データの蓄積不足のため、判定保留。

（今年のみデータ）



防除のポイント

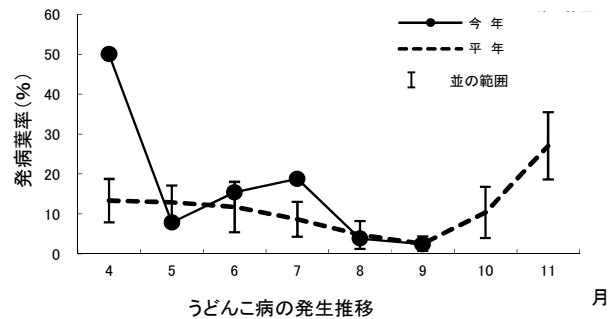
- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 新梢発生期には本種が増加する傾向にあるので、早期発見・防除を行う。
- ・ 不要な新梢は、早い時期に除去する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

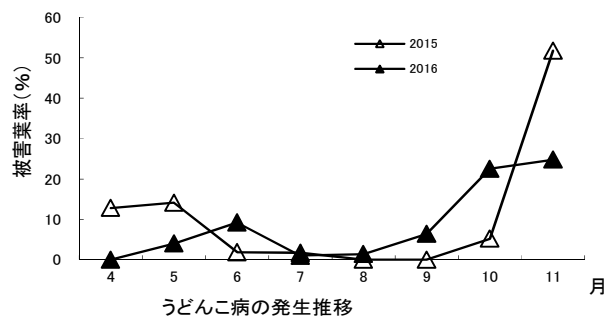
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、発病葉率は2.4%（前年6.4%、平年2.5%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

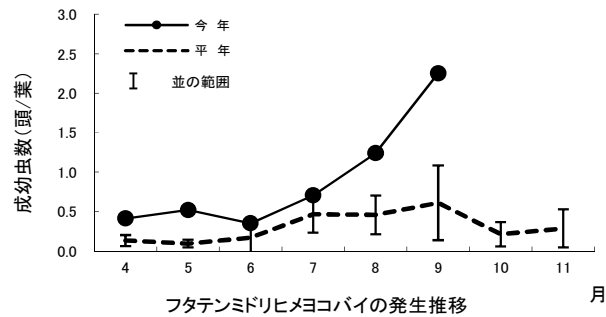
- ・ 不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
9月の発生量（現況）	多		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

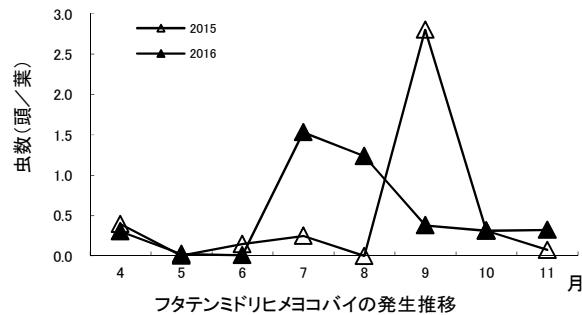
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は1.2頭（前年1.2頭、平年0.5頭）と平年より多かった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

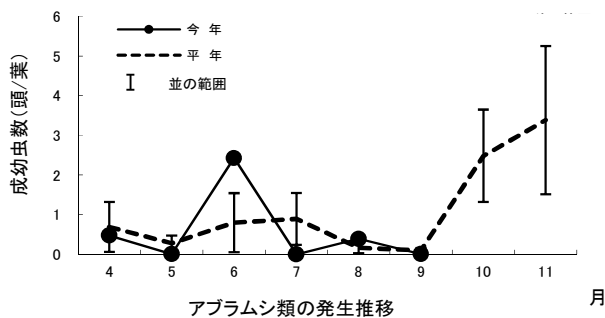
- ・ 多発すると吸汁加害により葉の萎縮や黄化が進み生育が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- ・ 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
9月の発生量（現況）	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

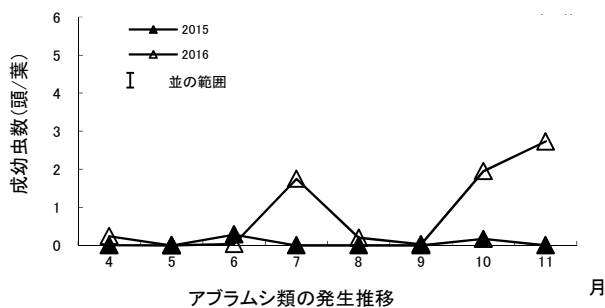
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.1頭未満（前年0.1頭未満、平年0.1頭）と平年よりやや少なかった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

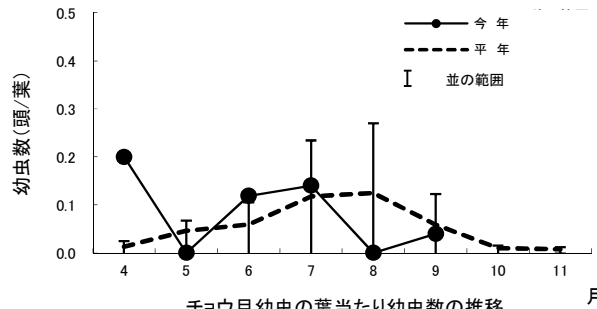
- ・ 多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生育が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- ・ 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		
9月の発生量(現況)	並		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

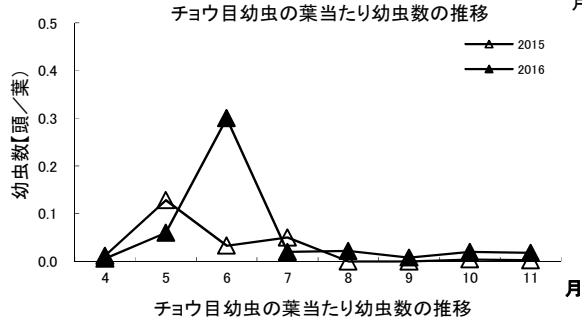
発生量の根拠(調査結果)

- 9月中旬の調査の結果、葉当たり幼虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年0.1頭)と平年並であった。
- 発生種はオオタバコガ、ハスモンヨトウであった。
- 9月中旬の調査の結果、果実100個当たりオオタバコガ卵及び幼虫数は3.2個、1.8頭であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- 発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- 老齢幼虫では薬剤効果が低下するので、若齢幼虫期のかすり状被害を確認したら速やかに防除を行う。